女流ヴァイオリニストたちの素敵なハーモニー

1部

4つのヴァイオリンの協奏曲 ニ長調…… テレマン

二重奏曲より 第2番 イ長調（加藤&堀米）… ルクレール

二つのヴァイオリンのためのソナタ ハ長調 Op.56
（戸田&川田）…… プロコフィエフ

4つのヴァイオリンのためのディヴェルティメント…… フンメル

2部

4つのヴァイオリンの協奏曲 ト長調…… テレマン

オペラ「魔笛」より（2003 Les Quatre Violons編）
…… モーツァルト

ヴァイオリン四重奏曲…… バツェヴィチ

春

2010 四季のコンサート

2010年4月4日（日）6:45PM
会場：浜松市教育文化会館
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

加藤 知子

第47回日本音楽コンクール・ヴァイオリン部門第1位、レウカディア賞受賞。翌年の海外派遣コンクールで特別賞受賞。1980年桐朋学園大学卒業。同8月、タングルウッド音楽祭に参加、メイヤー賞受賞。1981年文化庁派遣研修員として2年間、ジュリアード音楽院に留学。1982年第7回チャイコフスキー国際コンクール第2位受賞。1983年に帰国後、国内外でオーケストラとの共演やリサイタル、室内楽へ出演し常に高い評価を受けている。コロムビアより「イザイ無伴奏ヴァイオリン・ソナタ」「朝の歌～エルガー作品集」「バッハの無伴奏ソナタ&パルティータ全曲」、NYSより「シューマン・ソナタ」をリリースしている。桐朋学園大学教授。

堀米 ゆず子

1980年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで日本人初の優勝。以来ベルリン・フィル、ロンドン響、シカゴ響、アバド、小澤、ラトルなど世界一流のオーケストラ、指揮者との共演を重ねている。アメリカのマールボロ音楽祭やクレーメルの主宰するロッケンハウス音楽祭にしばしば参加。近年では、マルタ・アルゲリッチ、アシュケナージ指揮チェコ・フィルとの共演ほか、2007年から3年にわたりピアノのアブデル・ラーマン・エル＝バシャとベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会等が高い評価を得ている。現在、ブリュッセル王立音楽院客員教授。 http://www.palp.com/yuzukohorigome/

戸田 弥生

1985年日本音楽コンクール第1位。桐朋学園大学を首席で卒業後、奨学金を得てアムステルダムのスウェーリンク音楽院に留学。1993年エリーザベト王妃国際音楽コンクール優勝。1996年にはジュリアード音楽院より"ディレイ・スカラシップ"を受ける。国内外で幅広い活動を展開、モスクワ・フィル、スウェーデン放送響、ロンドン・フィル、および日本の著名オーケスラ等と共演。CDも数多く、オクタヴィアレコードから「イザイ無伴奏ヴァイオリン・ソナタ（全曲）」、珠玉の小品集「子供の夢」をリリースしている。1994年、第4回出光音楽賞を受賞。使用楽器は、土野製薬株式会社より貸与されている1740年製ピエトロ・ガルネリ。 http://yayoi-toda.com/

川田 知子

東京芸術大学を首席で卒業。1991年第5回シェボア国際コンクール優勝。国内外のオーケストラのソリストとして活躍し、サンクトペテルブルグ交響楽団定期演奏会でも絶賛を博す。微頃微尾一時も欠かさない集中力でイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全6曲を見事に弾き、大絶賛を浴びる。2003年4月、CD「オペラ座のヴァイオリン弾き～ヴァイオリンが唄うオペラ・アリア集」をリリース。2003年度、第33回エクソンモービル音楽賞、洋楽部門奨励賞を受賞。平成15年度国際交流基金日本文化紹介派遣事業でトルコ及びエジプトでリサイタルを行う。宮崎国際音楽祭に毎年参加。

女流ヴァイオリニストたちの
素敵なハーモニー

SPRING DREAM CONCERT
by TOP VIOLINISTS

曲目解説　真嶋 雄大

●ゲオルク・フィリップ・テレマン(1681～1767)／**4つのヴァイオリンの協奏曲 ニ長調**

テレマンは、バロック後期を代表するドイツの作曲家である。当時の人気はバッハやヘンデルをも凌ぐほどで、その名声はヨーロッパ中に轟いていた。極めて多作家であり、その数は4千を超えるとも言われている。作曲技法の殆どを独学でマスターし、12歳でオペラを作曲した神童でもあった。

この「4つのヴァイオリンの協奏曲」は、独奏楽器とオーケストラという形式ではなく、4台のヴァイオリンのみで構成されている。テレマンは楽器法を熟知しており、カノンなどの手法を見事に操って、音域を超えた豊かな響きの効果を醸し出している。

第1楽章：アダージョ　第2楽章：アレグロ　第3楽章：グラーヴェ　第4楽章：アレグロ

●ジャン＝マリー・ルクレール(1697～1764)／**二重奏曲より 第2番 イ長調**（加藤&堀米）

ルクレールはバロック音楽の作曲家であり、フランコ・ベルギー楽派の祖とも目される18世紀フランスを代表する大ヴァイオリニストである。パリで名を成し、「天使のように、自由なリズムの扱いと美しい音色」で聴衆を魅了した。ルクレールは、生涯に49曲のヴァイオリン・ソナタと13巻を超える協奏曲を出版したが、そのうち通奏低音を用いない2台のヴァイオリンのためのソナタは、作品3と作品12のそれぞれ6曲。今日演奏されるのは1730年に作曲された作品3の第2曲。モチーフを反復しながら対話するような第1楽章アレグロ、ラルゴでゆったりした第2楽章サラバンド、そして溌剌たるパッセージが競うような第3楽章アレグロで構成されている。

●セルゲイ・プロコフィエフ(1891～1953)／**二つのヴァイオリンのためのソナタ ハ長調 Op.56**（戸田&川田）

プロコフィエフは、ロシア革命後に日本やアメリカに居住していたが、その後パリで16年間を過ごした。そのパリで1932年、「トリトン室内楽演奏会」からの委嘱で書かれたのがこのソナタ。不協和音に満ち、緊張と弛緩が交錯するアンダンテ・カンタービレの第1楽章、荒々しいモチーフがリズムと織り成すアレグロの第2楽章、アイロニーと叙情美が共存するコモド（クアジ・アレグレット）の第3楽章、そして安堵感の溢れる部分と急速な部分とが絡み合い、混沌としながら突然ハ長調で曲を閉じるアレグロ・コン・ブリオの第4楽章と、無調でありながら茫洋と調性を感じさせる絶妙な手法など、いかにもプロコフィエフらしい作品である。

●ベルトルド・フンメル(1925～2002)／**4つのヴァイオリンのためのディヴェルティメント Op.36**

フンメルは、「無伴奏チェロのための《別れ》」や「打楽器協奏曲」などで知られるドイツの現代作曲家。同時にチェリストであり、ヴュルツブルクの音楽大学などで後進も育てた。作品数は200曲を超え、交響曲やオラトリオ、室内楽など多岐に亘っており、シュトゥットガルト作曲賞、デュッセルドルフ市からロベルト・シューマン賞、パリ市から国際芸術賞など多数の受賞歴がある。この曲は4台のヴァイオリン、或いはオーケストラのための作品で、1969年に書かれた。モダニズム的な要素を含みながら、明瞭な楽想が印象的である。

第1楽章：「行進曲」　第2楽章：「ワルツ」　第3楽章：「終曲」

●テレマン／4つのヴァイオリンの協奏曲 ト長調

テレマンは、プロムニッツ伯爵宮廷楽長、アイゼナハ宮廷楽長を歴任した後、自由都市フランクフルト・アム・マイン市の音楽監督などを務めたが、何といっても46年に及ぶハンブルク市音楽監督、学校「ヨハネウム」のカントルという職務が高い評価を得た。1722年、ライプツィヒの聖トマス教会の楽長が他界した時、ライプツィヒ市はまずテレマンを招聘しようとしたが断られたため、仕方なく知名度の低かったバッハを招聘したというエピソードが伝えられている。

第1楽章：ラルゴ・エ・スタカート　第2楽章：アレグロ　第3楽章：アダージョ　第4楽章：ヴィヴァーチェ

●モーツァルト(1756～1791)／**オペラ「魔笛」より**(2003 Les Quatre Violons編)

この作品は、モーツァルトの名作オペラ「魔笛」を、2つのフルートまたは2つのヴァイオリンのために1792年頃編曲された曲（編者不明）を、ヒロ・クロサキを中心としたアンサンブル「Les Quatre Violons」が4台のヴァイオリンのために再編曲したもの。「おいらは鳥刺し（パパゲーノ）」、「何と美しい絵姿（タミーノ）」、「復讐の心は地獄のように燃え（夜の女王）」、「僧侶の行進」、「恋を知るほどのお方なら（パミーナ、パミーノ）」、「愛の喜びは露と消え（パミーナ）」、「再びようこそ（3人の童子）」、「何と魔法の音は強いことか（タミーノ）」、そして「パ・パ・パ・パパゲーナ（パパゲーナ、パパゲーノ）」の9曲。

●グラジナ・バツェヴィチ(1909～1969)／**ヴァイオリン四重奏曲**

バツェヴィチは、ポーランドに生まれた国際的な女性作曲家で、ヴァイオリニストである。「ヴァイオリン・ソロのための《ポーランド風奇想曲》」などで広く知られるが、シマノフスキの影響から出発したバツェヴィチは、12音技法や電子音楽などの前衛的手法を採り入れながら、緻密で多彩な書法による7曲の弦楽四重奏曲、7曲のヴァイオリン協奏曲、そして4曲の交響曲など、彼女独自の世界を生み出した。この「ヴァイオリン四重奏曲」は1949年に作曲されている。

第1楽章：アレグレット　第2楽章：アンダンテ・トランクィロ　第3楽章：モルト・アレグロ

まじま ゆうだい（音楽評論家）